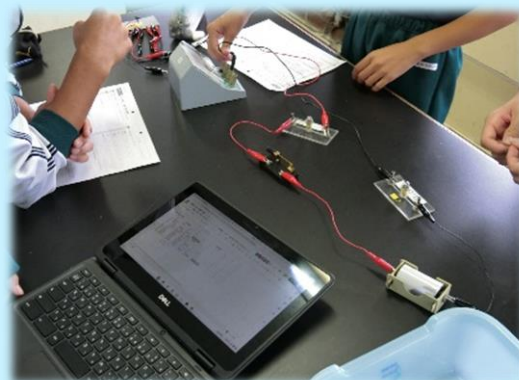


資質・能力の育成を図る

授 業 づ く り

～ 単元の見通しとICTの活用 の視点から ～



よりよい授業のために

1人1台端末の導入で、授業は大きく変わりました。先生方は、1人1台端末の効果的な活用について日々考え、悩みながら、授業の工夫・改善に取り組んでいることと思います。

授業の目的は、ねらいとする資質・能力の育成です。これは1単位時間の授業だけで身に付くものではなく、単元など内容や時間のまとまりの中で育成されるものです。そのため教師は、単元のゴールまでの見通しをもって、様々な手立てを講じていく必要があります。その手立ての一つがICTの活用です。

この冊子では、「単元の見通し」と「ICTの活用」に焦点を当てた授業実践例を紹介します。授業づくりの参考に、ご活用ください。

○国語科

○社会科

○数学科

○理科

○外国語科

教科のページへGo!



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

(知識及び技能)(2)ア

- 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) B(1)イ
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) B(1)ウ
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	・「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 B(1)イ ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 B(1)ウ	・積極的に根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって、説得力のある文章を書こうとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

単元の指導と評価の計画

(●…指導に生かす評価 ○…記録に残す評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1 2	単元の学習について見通しをもつ。 教科書の例(バス停までの道のり)における二つの意見の根拠について、複数の観点から考える。	●	●	
3	「修学旅行で京都・奈良に行けない場合の、旅行先の代案を提案しよう」について、自分の立場を明確にし、意見を支える根拠について多様な視点から考えるとともに、その根拠が適切かどうか吟味する。	○	●	
4	前時で考えた根拠について、同じ立場の班や異なる立場の班で吟味し合い、意見を支えるための、より適切な根拠を考える。		●	●
5	前時で吟味した根拠を基に説得力のある意見文を書く。		●	
6	根拠の適切さや考えが伝わる文章になっているか等の観点から意見文を読み合い、評価することで自分の文章の工夫点やよさについて考える。		○	○
7	意見文を基に、「修学旅行先のプレゼン」をする。		○	○

単元の見通し

「修学旅行で京都・奈良に行けない場合の、旅行先の代案を提案しよう」という言語活動と、「分かりやすい文章を構成する力を育成する」という単元で身に付ける力を生徒と共有することで、単元全体の見通しをもてるようにします。生徒にとって必要感のあるテーマを設定することで、目的意識が明確になり、生徒の主体的な学びにつながるようにします。



ICTの活用

本単元では、常に相手意識をもちながら文章を構成する力を育成します。より多くの友達から、意見文を見直すための助言をもらう手立てとして、Teamsを共有の場として生徒に提供し、Excelの共同編集機能(コメント)で意見を共有できるようにします。このことにより、多くの観点から文章の構成や展開を工夫する力が育成できると考えます。

授業の一例を見てみましょう（4/7時）

本時のねらい 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

本時では、Excel で作成したワークシートを用いて、旅行先を選んだ根拠について吟味する学習活動を行います。共同編集機能を活用した話し合いの場面では、複数の友達からの意見を即時に確認しながら、その意見について話し合うことで、自身の根拠をさらに吟味していきます。

学 習 活 動

- ① 前時を振り返り、本時のめあてと学習内容を確認する。

他者に伝わりやすい、説得力のある根拠になっているか吟味しよう。

- ② 個人で考えた根拠をもち寄り、班の根拠を吟味する。

・同じ旅行先を考えた生徒同士で班を編成し、個人が考えた根拠の中から班の主張を支える根拠としてふさわしいものを選ぶ。

- ③ 異なる旅行先を選んだ班の根拠について考える。

・自分の班と異なる立場の根拠についてタブレット上で共有し、その根拠が適切かを吟味し、気付いたことをコメントする。
・自分の班に対するコメントについて確認し、根拠の弱さについて話し合い、より適切な根拠とは何かについて考える。

- ④ 本時を振り返る。

・Excel の共同編集機能で振り返りを入力するとともに、友達の振り返りを確認する。



本時の見どころはココ！

・Teams で全員のワークシートを閲覧できるようにすることで、たくさんの根拠に触れることができます。

・Excel の共同編集機能を使用することで、同じ班のワークシートを同時に編集し、共有を図りながら説得力のある根拠を考えることができます。



ぼくたちが選んだ場所には、歴史的な文化財が多いことをアピールしたいね。



・異なる旅行先を選んだ班の根拠について吟味し、根拠が適切かをコメントし合うことで、お互いのコメントを即時に確認でき、根拠を見直すことができます。



京都や奈良と同じくらい魅力的な文化財があることについて、もっと具体的に説明すれば、説得力が増すと思うよ。



生徒の振り返り

自分とは立場が違う人からのコメントがとても参考になりました。反対の意見の友達にも納得してもらえるような説得力のある根拠を示すことが大切だと実感しました。そのためには、根拠となる情報などを分かりやすい表現で伝えることが必要だと感じました。

最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう



生徒たちにとって必要感のあるテーマを設定したことで、単元の終わりまで学習意欲が持続し、主体的に取り組む姿が見られました。「書くこと」の単元では、友達と意見を共有しながら、自分の考えを広げたり深めたりする過程が重要だと考えます。ICTの活用により、より多くの友達と情報を共有することが可能となり、根拠の適切さを考えながら、自分の考えがより明確に伝わるよう工夫して書く力が身に付きました。



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい・関東地方の人口の分布や産業などの地域的特色、それらの関係、課題などについて理解する。

(知識及び技能)

・関東地方の地域的特色や課題などについて、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基にして、事象間の関係や地域内の結び付きなどに着目しながら、多面的・多角的に考察し、表現する。

(思考力、判断力、表現力等)

・関東地方の地域的特色やその要因、地域の課題などを主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関東地方の人口の分布や産業などの地域的特色、それらの関係、課題などについて理解している。	関東地方の地域的特色や課題などについて、事象間の関係や地域内の結び付きなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	関東地方の地域的特色やその要因、地域の課題などを主体的に追究、解決しようとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

小単元の指導と評価の計画

(●…指導に生かす評価 ○…記録に残す評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	小単元を通して学びたいことを共有し、学習計画を立てる。 小単元を貫く学習課題「人口が集中する関東地方において、持続可能な社会を実現するためには何が必要か」			●
2	「関東地方の地形や気候にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
3	「関東地方の人口構成にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
4	「関東地方の商業にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
5	「関東地方の農業にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
6	「関東地方の工業にはどのような特色があるのだろうか」について考える。	●	●	
7	「関東地方にはどのような課題があるのだろうか」について考える。	●	●	
8	資料や思考ツールを用いて、小単元を貫く学習課題について班でまとめる。		○	
9	各班の意見を共有し、小単元を貫く学習課題についての考えを練り直す。			○
	小単元終了後のペーパーテスト	○		

小単元の見通し

第1時で、生徒たちが、関東地方について学びたいことなどを出し合い、小単元を貫く学習課題を設定し、この解決のために第2～7時の学習を行います。第8時で小単元を貫く学習課題について班ごとに話し合いを行い、最終の第9時で各班のまとめを共有し、自分の考えを練り直します。このように単元のゴールをクラス全体で共有して学習を進めることは、追究意欲の持続や協働的な学習につながると考えます。



ICTの活用

生徒たちが資料を見ながら意見を交換したり、視点を明確にしながらかし合ったりできるように、タブレットから自由にアクセスできる「資料箱」を用意します。また、思考ツールを用いて、考えを整理する機会を設けます。小単元を貫く課題の解決に向けて考える際に、話し合いの根拠となる資料を共有したり、考えを可視化して伝え合ったりすることは、思考の深化につながると考えます。

本時のねらい 関東地方の課題を基に、関東地方が今後、目指していく姿について考える。

本時は、「関東地方の今後の姿」について、班で構想する時間です。前時までの学習内容を生かせるように、これまでの学習で用いた資料や考えてきたことを確認します。また、思考ツールを用いて話合いの視点を明確にしながらか自分の考えを伝え合い、班の考えをまとめることができるようにします。

学 習 活 動

① 学習課題を確認する。

人口が集中する関東地方において、持続可能な社会を実現するためには何が必要か。

- これまでの学習内容を振り返る。

② 関東地方の今後の姿について資料を基に考察する。

- 「目指す姿」、「課題」、「提案」という三つの視点を明確にしながらか、班ごとに考察する。
- タブレットの中の「資料箱」にある資料を確認する。
- 班ごとに使いやすい思考ツールを選択し、話合いを行う。
- ほかの班と意見交換し、視点や考え方を参考にする。
- 次時の発表に向けて、提案の内容を整理し、各班でまとめた思考ツールを「提出箱」に提出する。

③ 本時の振り返りをする。

- 振り返りシートの記入を行う。



生徒の振り返り

これまでの学習で、関東地方の様々な問題の主な原因は、人口格差であるということはいよいよ分かっていただけけれど、いざ、目指す姿や、そのための提案を考えると、単純ではないと感じた。人口格差の解消ばかりを考えていただけけれど、班で話合っているうちに、人口を均等にして、北関東と東京大都市圏を同じような地域にするのではなくて、それぞれの地域のよさを生かしてお互いに助け合える関係をつくることが必要なのかもしれないと思った。



本時の見どころはココ！

- これまでの学習で用いた資料と本時で新たに示した資料、教科書や資料集に掲載されている資料をタブレットで管理することにより、班の考えとその根拠となる資料を関連付けやすくします。

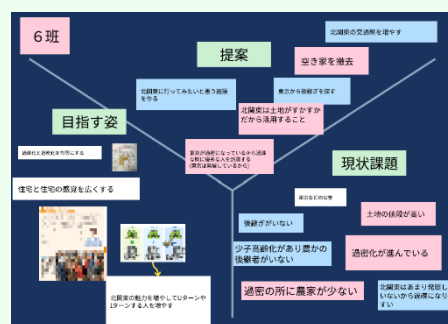


今日の資料も参考にして、関東地方の「課題」を見直してみよう。

- 班の話合いの途中経過を、タブレットを用いて、ほかの班と伝え合うことにより、新たな視点に気付けるようにします。この活動により、その後の話合いがより活発になります。



- Y字チャート、マトリクス表などの中から使いやすい思考ツールを選ぶことにより、生徒たちがやりやすい方法で、話合いができるようにします。話合いの視点を明確にしたり、お互いの思考を可視化したりしながら、自分たちの考えとその根拠となる資料をまとめることができます。



これまでの学習を基に、「現状の課題」と「目指す姿」を明らかにすると、これからの関東地方への「提案」が見えてくるね。



最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう



生徒たちの学びたいことを基に、クラス全体で「小単元を貫く学習課題」を設定するのは難しいことでしたが、全員が同じゴールを見据えていたので、課題の解決に向けて活発な話合いが見られました。また、タブレットに「資料箱」というフォルダを作り、資料を自由に活用できるようにしたことで、自分の考えの根拠となる資料を選ぶことができるようになりました。単元の構想とICTの活用の工夫が、話合いや資料活用場面を充実させることにつながったので、生徒たちは、資料などを基に構築した自分なりの考えを、より多面的・多角的に再構築する力を伸ばすことができました。



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

- ねらい**
- 一次関数について理解し、事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知り、二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。(知識及び技能)
 - 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。また、一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
 - 一次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。(学びに向かう力、人間性等)

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 一次関数について理解している。 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数について考えようとしている。 一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

単元の指導と評価の計画

(●…指導に生かす評価 ○…記録に残す評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1 節	1~2 伴って変わる二つの数量の間の関係 (※)	※	※	※
2 節	3 一次関数の値の変化に関する特徴を理解する。	●		
	4 一次関数の値の変化の様子をグラフで表す。	●		
	5~6 一次関数のグラフの特徴を調べ、グラフを簡単にかく方法を考える。		○	●
	7 一次関数の式を求めるために必要な条件を理解する。	●		
	8 2点の座標から、一次関数の式を求める方法を考える。		○	
	9 一次関数の既習事項を基本の問題で確認する。	○		○
3 節	10~12 二元一次方程式と一次関数 (※)	※	※	※
4 節	13~17 一次関数の利用 (※)	※	※	※

※1 節、3 節、4 節については「学習活動」と「評価」を省略しています。

単元の見通し

本単元では、具体的な事象の中で関数関係にあるものについて考察し、適切に表現する力を養います。その際には、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し表現することが大切です。そこで、表やグラフの読み取り方、変化の割合や傾きの意味などを、毎時間の導入や振り返り等で繰り返し確認し、一次関数の基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指します。表、式、グラフを相互に関連付けて、表現し考察することは、より深い学びへとつながると考えます。



ICTの活用

具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べる際、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりします。学習活動の充実を図るため、友達との迅速な情報共有、思考過程の可視化、グラフや値の変化の確認などをするツールとしてICTを活用することで、生徒一人一人が考えを深めることができるようにします。

本時のねらい 2点の座標が条件として与えられたとき、一次関数の式や直線の式の求め方を考察することができる。

本時は、2点の座標を通る直線の式の求め方を考える時間です。前時までの学習を基に、直線の傾きや切片を表、式、グラフと関連付けながら考えていきます。今まで画面に表示されていたグラフの目盛りを意図的に消すことで新たな思考を促します。お互いの考え方をタブレットで共有し、考えを伝え合うことでより深い理解へとつながることをねらいとしています。

学 習 活 動

① 学習課題を確認する。

2点の座標から一次関数の式を求めよう。

• これまでの学習内容を振り返る。

② 課題に取り組む。

• 既習事項を想起しながら、表やグラフを使って2点を通る一次関数の式の求め方を考える。

③ 考え方を共有する。

• 友達の式の求め方を見て、自分の考え方と同じ部分や異なる部分を確認し合い、課題解決の方法を共有する。

④ 類題で確認する。

• 生徒同士で類題を作成し、その問題を解きながら、理解を深める。

⑤ 本時の振り返りをする。

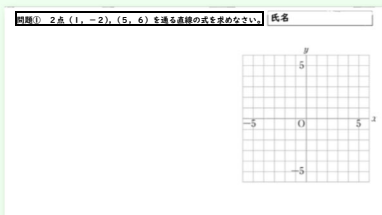
• 一次関数の式を求めるには、何が分かればよいのかを確認し、次回の学習へとつなげる。

生徒の振り返り

2点の座標を通る一次関数の式を求めるときには、グラフをかいて目盛りを読み取ればよいと思っていましたが、それ以外にも連立方程式を使って計算で求めたり、 x と y の対応表から求めたり、いろいろな方法があるんだと思いました。友達から考え方を教えてもらって、同じようにやったら問題が解けてうれしかったです。



本時の見どころはココ！

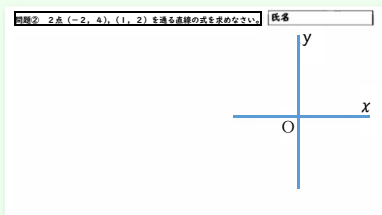


グラフをかけば、傾きも切片も読み取れるから簡単だよ。

2点の座標を座標平面上にとり、直線で結ぶことで傾きと切片を目盛りから読み取っています。



でも、座標平面の目盛りがなくなってしまうと…



目盛りがないと正確なグラフがかけないし、読み取ることもできない。どうしよう…。

目盛りを読み取れば一次関数の式を求められると考えていた生徒たちは、思いもしない新たな課題に驚きながらも、どうしたら解決できるかを一生懸命に考え始めます。課題の解決に向けて対話が活発になり、多くの視点からの考察が期待できます。

グラフから読み取る以外の方法もあるはず！
今までの学習を振り返ってみようよ！



最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう

本単元では、関数関係にある事象を考察する手段として、表、式、グラフを活用する場面を計画的に設定しました。また、考察の際にICTを用いることで、生徒がお互いの考え方を共有して多くの視点から表、式、グラフを捉え直したり、思考を可視化しながら表、式、グラフの関連について話し合ったりする姿が見られました。このような学習を積み重ねることによって、関数関係にある具体的な事象を数学的に表現し、考察する力が身に付いたと思います。

まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

- ねらい**
- 電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。
 - 電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働きの規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究すること。
 - 電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする事。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働きの規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

単元の指導と評価の計画

(●…指導に生かす評価 ○…記録に残す評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	電流についての知識をイメージマップで表現する。 電流に関する現象を日常生活と関連付けながら、学習課題を見いだす。		●	●
2~4	回路の種類などについて理解し、基本的な操作技能を身に付ける。	●		
5~7	電流の規則性を見だし、理解する。	○	●	
8~10	電圧の規則性を見だし、理解する。	○	●	
11	電気抵抗について理解する。 ・抵抗に加わる電圧の大きさと流れる電流の大きさの関係性を調べる。		●	
12~14	電気抵抗について理解する。	●	●	
15~17	電流の働きについて理解する。 電流に関する現象を日常生活と関連付けて、科学的に探究する。 電流について分かったことをイメージマップに整理し、学習を振り返る。	●	○	○
	単元終了後のペーパーテスト	○	○	

単元の見通し

単元のはじめに日常生活と関連付けた「電流」に関する現象を観察します。単元全体を通して学んだ回路、電流、電圧、抵抗、電流の働きに関する知識や概念を活用して、単元のはじめに提示した現象を説明できることをゴールとしています。単元全体を通して、観察、実験の結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見いだして表現することに重点を置くことで、科学的な根拠に基づいて表現する力の育成につながると考えます。



ICTの活用

この単元では、実験で得たデータを表やグラフにまとめたり、その表やグラフを読み取ったりすることによって、電流や電圧の規則性について理解を深めていきます。その過程で、ICTを活用することは、視覚的な理解や、多くのデータや多様な考え方の共有に役立ちます。また、データのグラフ化などを瞬時に行えるので、実験結果について自分で考えたり、友達と話し合ったりする時間が増え、思考の深まりにつながると考えます。

本時のねらい 電圧と電流の関係を表すグラフから、抵抗器に流れる電流は電圧に比例し、傾きが電流の流れやすさ・流れにくさを表していることを見いだして表現すること。

本時は、複数の抵抗器を使い、加えた電圧に対して流れた電流を測定し、その結果をグラフに表すことを通して、加えた電圧と流れる電流の関係が比例していることを見いだします。また、抵抗の値が異なる複数の抵抗器を使用することで、抵抗器に示された値とグラフの傾きの関係に気付くようにしています。

学 習 活 動

① 学習課題を確認する。

抵抗に加わる電圧の大きさと流れる電流の大きさの関係を調べよう。

② 予想の共有と実験の方法の確認をする。

- 予想をスクリーンメニューの共有機能を用いて伝え合う。

③ 実験を行い、結果を基に考察する。

- 抵抗とグラフの傾きの関係を考える。

④ クラス全体で考えを共有する。

- ほかの班の結果や考えも参考にして科学的に考察にする。

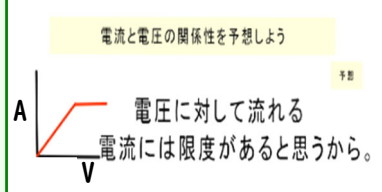
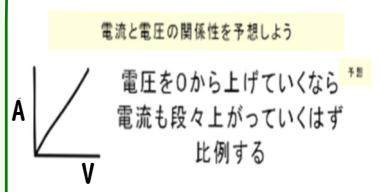
⑤ 本時の振り返りを行う。

- 本時のまとめをスプレッドシートに記述し、提出する。

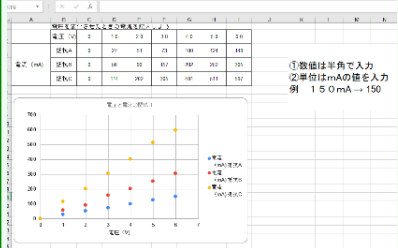


本時の見どころはココ!

- タブレットに書き込んだ実験結果の予想を共有することによって、短い時間でも友達と自分の考えを比較できるようにします。



- 表計算ソフトを活用することにより、実験の結果を入力すると瞬時にグラフとして提示されるので、グラフを作成する時間が短縮でき、考察する時間を十分に確保できます。
- タブレットで全ての班の結果を比較できるようにすることで、豊富なデータから妥当性の高い結論を導き出せます。



自分の実験結果だけでなく、ほかの班の結果と比較できると、規則性を見いだしやすくなるね。

生徒の振り返り

電圧が 1.0V の場合、電流 240mA の結果に対し、電圧を 2.0V にすると 470mA になった。ほかの班の結果やグラフ全体の傾向、誤差を踏まえて考えると、電流と電圧の関係は比例であるといえる。また、どの抵抗器でも全て比例の関係になっていることがグラフから分かった。抵抗器に書いてある値とグラフの傾きを比べてみると、抵抗器の値が 2 倍になると流れる電流は 1/2 になっていた。次は、抵抗器の値と電流の関係について調べたい。

最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう



単元を通して、回路、電流、電圧、抵抗、電流の働きと身の回りの電気器具を関連付けて考えられるように授業を構想した結果、日常生活の現象と結び付けて、実験や考察を行う姿が見られました。また、タブレットを用いることで、生徒たちが予想を共有したり、考察の視点を増やしたりすることができました。教師の説明や実験データを整理する時間を短縮することにもつながり、規則性や関係性を見いだす時間を確保することができました。このことは、生徒が実験の結果を分析して解釈し、より妥当性の高い結論を導き出す力の育成につながったと思います。



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい 夏休み中に体験したことが相手に伝わるように、行った場所やその場所で楽しんだことなどについて、話すことができる。

評価規準(「話すこと[発表]」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 前置詞や動名詞、動詞の過去形を用いた文の意味・用法を理解している。 <技能> 前置詞や動名詞、動詞の過去形を用いて、自分が過去にしたことなどについて表現する技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、夏休み中に行った場所や、その場所で楽しんだことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを整理して話している。	自分のことをよく知ってもらうために、夏休み中に行った場所や、その場所で楽しんだことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを整理して話そうとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

単元の指導と評価の計画

(○…記録に残す評価 空欄…指導に生かす評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	単元のゴールとなる言語活動「夏休みの思い出を紹介しよう」 単元のゴールとなる言語活動を知り、発表に対する課題意識をもつ。			
2	第1時の授業で考えた文章の一部を、前置詞を用いてさらに詳しく表現する。			
3	前置詞を用いて、ものの場所や人の位置を正しく伝える。			
4	自分の好きなことや第1時の授業で考えた文章の一部について、動名詞を用いてさらに詳しく表現する。			
5	動名詞を用いて好きなことや楽しんでいること、得意なことを伝える。			
6	一般動詞の過去形について理解する。			
7	教科書の会話文の内容を理解する。			
8	夏休み中に体験したことが相手に伝わるように、行った場所やその場所で楽しんだことについて、話す内容を整理し、発表する。 次時に向けて、発表の様子をタブレットで録画する。		○	○
9	前時の発表動画を視聴し、自分の発表やこれまでの学習を振り返る。	○		

単元の見通し

誰に、何を伝えるのかという目的のある言語活動を単元のゴールとして設定します。そして生徒が、毎時間の授業が段階的にゴールにつながっているという意識をもてるように単元を構想します。そうすることで、毎時間の学習内容が言語活動と関連付けられ、英語表現が豊かになります。ゴールに向かう過程で、前置詞や動名詞、動詞の過去形を用いて、自分が過去にしたことなどについて表現する技能が向上し、発表内容が深まることが期待できます。



ICTの活用

発表内容を再構築する際、タブレットの翻訳アプリを用いて、即座に発音や英語表現を改善できるようにします。また、発表動画をタブレットで録画し、自分の動画を視聴することで、相手が理解しやすい発表になっているかどうかを客観的に捉えることができるので、相手意識の向上につながることを期待できます。録画を複数回行うことで、話す速さや強調したい点が改善され、パフォーマンスの向上につながると考えます。

授業の一例を見てみましょう（8/9時）

本時のねらい 夏休み中に体験したことが相手に伝わるように、行った場所やその場所で楽しんだことについて、話す内容を整理し、友達に話すことができる。

本時は、夏休み中に体験したことについて発表する時間です。前時までにタブレットなどを活用して構成した内容を、3人グループで発表します。発表の様子をタブレットで録画し視聴することで、自分の発表を客観的に捉えます。録画を繰り返し、よりよい発表に向けて再構築していきます。

学 習 活 動

- ① スモールトークをする。
 - ・曜日、日付、天気を伝え合う。
 - ・昨日したことについて、ペアで1分間話す。
- ② 本時の目標をクラスで考える。

発表内容を整理し、聞き手を意識した発表をしよう。
- ③ 発表の準備をする。
 - ・前時までに作成した夏休み中の思い出についての紹介文と発表資料を再確認する。
 - ・翻訳アプリで発音を確認する。
- ④ 発表を録画し改善する。
 - ・タブレットの画像を見せながら発表し、お互いに助言し合う。
 - ・発表を録画し、発表内容や発音を振り返る。
 - ・改善点を話し合い、難しい英語表現を見直して易しい表現に変更したり、英語を付け加えたりして、よりよい発表になるよう検討する。
 - ・改善点を生かした発表を録画し合う。
- ⑤ 本時の振り返りをする。
 - ・タブレットで振り返りを行い、動画を添付して提出する。



本時の見どころはココ！

- ・翻訳アプリで、自分の発音した英語が正しく認識できるか確認します。

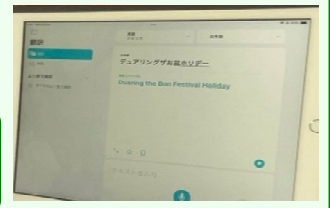
あれ？自分の英語が正しく認識されない。この発音だと伝わらないのか…。



- ・翻訳アプリに読み方が不明確な英語を入力することで、発音を確認します。



なるほど！正しい発音があったから、アクセントの位置に注意して練習しよう。



- ・発表を録画し客観的に見ること、相手意識が向上します。

友達のアドバイスを基に、相手を見て話すことを意識したよ。



- ・自分の発表を振り返り、お互いに改善点を話し合いながら、よりよい発表を目指します。

“instrument”の発音が難しかったから、何度も練習したよ。伝わるといいな。



生徒の振り返り

今までに学習した表現を使って、夏休み中に体験したことを友達に伝えることができた。自分が発音した英語を翻訳アプリで正しく読み取ってもらえたので、自信が付いた。友達と相談したから改善するところが分かって発表に生かせた。

最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう



単元のはじめに、教師がゴールとなる活動を示すことで、生徒が見通しをもって毎時間の活動に取り組む様子が見られました。翻訳アプリを活用することで、正しい発音を確認することができ、生徒は表現することに自信が付きました。友達から助言をもらったり、録画した自分の発表を振り返ったりしながら、よりよい発表に向けて発表内容を再構築する姿が見られました。既習表現を想起しながら本当に伝えたいことを英語で伝える力が身に付きました。

資質・能力の育成のために「単元の見通し」と「ICTの活用」を工夫すると、次のような効果があります。

単元の見通し



教師が、育成を目指す資質・能力を意識して単元の見通しをもつことで、単元のゴールに向かう生徒の具体的な姿をイメージできます。そうすると、どの時間に、どんな手立てで、どんな力を育成するかが明確になります。



生徒が単元の見通しをもつことにより、毎時間の学習の目標が明確になるので、主体的な学習につながります。また、クラス全員が単元のゴールを共有するので、協働的な学びが促進されます。

ICTの活用



ICTを効果的に活用することにより、教師は、生徒一人一人の学びのプロセスを把握しやすくなります。そのため、単元終了後の「目指す生徒の姿」に向けて、適切な支援を講じることができます。



生徒が、考えを伝え合う場面や振り返りの場面などでICTを活用することにより、話合いの視点が明確になったり、思考が可視化されたりします。多様な意見に触れることで対話がより活発になり、思考が深まります。

令和4（2022）年度

「小・中学校における教科指導充実に関する調査研究」研究協力委員

慶野 裕也（佐野市立植野小学校）
佐藤 郁哉（那須町立東陽小学校）
君島 良彦（塩谷町立船生小学校）
渡辺 一博（宇都宮市立平石北小学校）
瀬崎 理恵（鹿沼市立北小学校）

横田 侑宏（小山市立小山第三中学校）
野本 瑛雅（上三川町立明治中学校）
佐々木睦実（壬生町立南犬飼中学校）
樋山 貴洋（矢板市立矢板中学校）
手塚 成司（芳賀町立芳賀中学校）

詳しくはWebサイトをご覧ください。



栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のときぎ

栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070

令和5（2023）年3月 発行
TEL 028-665-7204